

らいつ萩園通信

ぶちらいふ

2005.秋 創刊号

らいつ萩園収穫野菜



らいつ萩園 居宅介護支援センター
事務所番号 1472401213
ディサービス らいつ萩園
事務所番号 1472401064



らいつ萩園の庭木を、とても大切におもつてくださる、心優しいご主人の高橋幸一郎(こういちろう)さんと、一緒にいるだけで周りを明るくしてくださる奥様の王子(きみこ)さんにお話を伺いました。

らいつ萩園には、現在三組のご夫婦が集っています。お二人の年齢を足すと二百歳近いカップルもおみえですが、今号では、一番若い同級生ご夫婦をご紹介します。

幸一郎さんは、平塚市(しんど)に生まれ、少年時代を過ごされたそうです。王子さんは、五歳まで横浜で過ごし、ご両親と旧満州に渡られたそうです。大変険しいご両親だったそうです。お二人が終戦(昭和二十年)をむかえたのは、ともに12歳の時で、王子さんは、昭和二年にようやく旧満州から



幸一郎さんは本職を捨て夢中で生きてきたそうです。その後、幸一郎さんも交通事故をきっかけに、体調を崩され、立派に成長された息子さんご夫婦や、王子さんに支えられた場面が多くなりました。三十代で回復を見た王子さんは、今そんな時代があったとは想像がつかないくらい、輝いて見えます。何かにつけて「私は女房に恵まれた」と話す幸一郎さん。

「今も楽しめないけれど、なんとかが生活している。長い病気の戦いだっただけから、二人と愛犬ミルキー(お二人に似たパグ犬です)との生活を穏やかに過ごしたい」とインタビューを締めくくってくださいました。お話を伺っているのは、お二人がお互いをとても大切に思っているから、しゃべることが伝わってくるからかも知れません。

『女房に恵まれた』が口癖のご主人。『生活を穏やかに過ごしたい』と笑いながら応える奥様。



らいつ生活人 ライフインタビュー① 高橋さんご夫婦



らいつ引き上げ、岩手県や横浜市、平塚市など点々とする時期があったそうです。幸一郎さんも東京で身につけた後、王子さんと縁でお見合い結婚をされました。結婚生活は、ご長男が生まれた直後から波乱万丈だったそうです。結婚前に交通事故にあつた後遺症が、乳飲み子を抱えた王子さんを襲ったのです。

Medical check

口腔ケアの研修報告

去る7月20日、らいつ萩園では、黒岩恭子先生(村田歯科医院の院長)を招き、口腔ケアの研修を開催しました。



黒岩先生は、地域に根ざした在宅歯科医療を茅ヶ崎で地道に実践される傍ら、障害者施設、高齢者施設での歯科診療、衛生指導や、全国での講演など、エネルギーに活動されています。私たちデイサービスに従事する者にとっても、『いつまでもおいしく口から食べる口腔ケア』は重要課題です。しかし実際の取り組みは、後始末的なケアになっていく為、黒岩先生に相談し、4月から先生の考案されたクルリーナ歯ブラシを導入することとし、希望される方や、必要と思われる方への本格的な口腔ケアを始めました。今回の研修は、私たちのそのような実践を受けて、皆がケアする側、される側を体験することから始まりました。口中にクッキーをほおばり、お互いに汚れを取るのですが、ケアされる側の体験は思ったより大変でした。(皆上手にやっていたつもりでしたが!)長年実践されている黒岩先生に口腔ケアしていただくと、とても気持ち良かったのに...

実習のあと、「舌の動きが低下して飲み込みが悪くなっている方へのケアについて」など、日々の実践をとおしたさまざまな質問がスタッフからでました。先生から、一つ一つ丁寧にアドバイスをいただき、皆一応に目からうろこが落ちたような心境でした。

研修を終え、らいつ萩園では今、食事前の口腔ケア・口腔体操が目的意識的に行われています。

「クルリーナ歯ブラシが、口腔内の汚れをかき出すだけでなく、舌や口腔内に刺激することで唾液の分泌をうながす、咽頭に絡まる痰を取り除くなど、口からのどまでのケアであり、そのことが生活すべてにつながっていくことを実感した」(スタッフの研修報告より)

(注)6月に改正介護保険法が成立しました。その主要な柱として、要介護度の軽い方を対象に、状態を改善し悪化を防ぐ『介護予防サービス(新予防給付)』の創設、介護保険対象外の高齢者向けの介護予防を行う『地域支援センター』の創設が打ち出されています。(その他さまざまな内容が変わる予定です。)

らいつ萩園では、当初から『心を添えてともに生きる』という理念に基づき、いつまでも住み慣れた地域で暮らせるよう、生活に根ざしたりハビリを取り入れています。さらに来春から始まる、『介護予防サービス』に十分対応できるプログラム作りを開始しています。

そのひとつが、上記のような『いつまでもおいしく食事をいただく』取り組みです。

スタッフ紹介

らいつ萩園のスタッフを紹介! 今回特にここに注目です。

お休みはどんなことをしていますか? (マイブームを教えてください)

生活相談員 長谷川 真

(はせがわ まこと)

血液型: A B型

出身地: 神奈川県横浜市港北区 座右の銘: 信は力なり

小さい頃に茅ヶ崎に引っ越してきて野原を駆けまわったりしていました。おかげで生傷がたえなく、よく親に怒られていました。今でも当時の傷が残っているくらいです。元気だけが取り柄ですが、今後ともよろしくお願ひします。

現在のマイブームは、温泉にはまっていることです。あと、冬は毎年スノーボード三昧しているため、いっこうに貯金が増えません!



夫婦プラス犬2匹でおいしい空気を吸いながら散歩するのが最高です。マイブームは、イヌ友を増やすこと? らいつ萩園のお客様のワンちゃんにも、すいぶんイヌ友できました!

ケアワーカー 池田 尚美 (いけだ なおみ) 血液型: O型 出身地: 静岡県熱海生まれの平塚育ち 座右の銘: (最近)自分らしく

ぶちらいふ2005冬にお便りをお待ちしております!



編集後記

「ぶちらいふ」という誌名は、らいつ萩園の生活をぶちらいふとして紹介することにも、皆様に愛着を持っていただけるデイサービスと情報誌を目指して名づけました。この小さな季刊誌が、利用されているご本人・ご家族の皆さん、そしてスタッフとの橋渡しになれば、こんなに嬉しいことはありません。編集部では、皆さんからのご意見、ご感想をお待ちしています。また、俳句、川柳、短歌、随筆、写真、スケッチ等なんでも結構です。からお寄せください。順次、掲載させていただきます。順がりの輪を広げていきたいと思っております。季節ごとに年間四回発行する予定です。次号の発行は十一月です。(三)

■週一回、らいつ萩園に行くと、砂漠でオアシスにたどり着いた旅人のようにホッとします。先日、新聞を発行されるといので、私も駄文を書きました。新聞に載せたい記事を書くのは実に、半世紀以上前にガリ版刷で作った中学校の壁新聞以来のことです。久しぶりに、青春の鼓動を感じました。(井)





『らいふ萩園節』 (草津節で歌ってね！)

萩園よいとこ 一度はおいで (ア、ドッコイショ)
みんな元気で コーリヤ 笑顔たえぬ (チョイナ、チョイナ)

萩園よいとこ 木造りの家よ (ア、ドッコイショ)
風呂も桧で コーリヤ 心なごむ (チョイナ、チョイナ)

萩園よいとこ お話好きよ (ア、ドッコイショ)
しゃべりやこの世は コーリヤ 一つとなるよ
(チョイナ、チョイナ)

歌詞 太田 照子

■週一で利用されている太田照子さんから、「らいふのテーマソング」を創りたいと言われ、翌週にはもう『らいふ萩園節』が完成していたのには正直驚きました。もともと行動力のある太田さん。短い歌詞の中に、らいふ萩園の良いところが簡潔に表現されていて、センスの良さが光ります。はやくらいふではやらせましょうね！(編)

平屋の木の温かさ
館内の落ちついた開放感が
とても気に入っています。



『デイサービス
らいふ萩園』
一周年に寄せて

桑原 幸雄

『デイサービス らいふ萩園』一周年おめでとうございます。まぶたを閉じてこの一年を振り返ると、新北陵病院の介護支援専門員の新井さんより、新しい施設ができるので一度見てくださいと誘われて、昨年の八月二十八日見学に行きました。

平屋で木の温かさや館内の落ちついた開放感がとても気持ちよい所だと思えました。また、スタッフの方もとても優しく心づかいが行き届いていて笑顔と明るさにもうれしく思いました。私も苦手で、会話することになりましたが、言語訓練やリハビリも何事もやってみなければと、スタッフの方には励まされていたのでした。

いま大勢あつまり、ゆつくり話をしてどうにか話せる様になりました。また、食事のことについて、すごく上手で、毎回楽しみにしております。『らいふ萩園』のスタッフが、いろんなイベントを企画してくれています。例えば、

- ① 予防の運動 ストレッチ・口腔体操 上下の機能練習(上肢下肢の機能訓練のことを指しておられます。編集者)
- ② 体力づくりをかねて ゲートボール・風船ハレー・ミニ
- ③ 四季のまつり 長寿祝い・誕生日祝い・夏祭り・クリスマス・歌、おどり
- ④ 趣味の活動 囲碁・将棋・麻雀・オセロ・トランプ・百人一首・マスケットづくり・リハビリの厄除けキーホルダーづくり・絵葉書・筆・折り紙・写真勉強など
- ⑤ 行楽と歩行訓練
外出・ドライブ・小田原国府津遠影海岸・コスモス畑・横浜中華街開帝廟参拝「茄香尊酒家」会食(横浜ランドマークタワーを眺めて)・寒川中央公園(花見桜)・湘南平(花見桜)・宝蔵寺(アジサイ)・茅ヶ崎市役所前ジャスコ(買い物)など

『らいふ萩園』へ行けばいつでもお元気な皆さんに会えるので、明るく大きな夢を持ってやり抜く努力をしようという気持ちになります。新しい気持ちで張り切って行きたいと思えます。ますますご発展をお祈り申し上げます。

秋風

「秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の首を驚ろかれぬる」と、昔から歌にも歌われていたように、朝晩の冷とした風を秋を感じるのころである。▲秋の風といえは、古くは野分、現代では台風、アメリカではハリケーンなど、穏やかでない風を連想してしまふことが多いが、情緒たつぷりの「風の盆」というのもある。▲越中(富山県)の八尾の盆踊である。風鎮めの祭といつて、二百十日の九月一日から三日行われる。胡弓と三味線で「おわら節」の哀しい調べがかなでられる。それに合わせて深い編み笠を被った踊り

手の列が暗い街を川の流れるように練り歩く。▲この素朴な盆踊を全国的に有名にしたのが、茅ヶ崎在住の作家・高橋治氏である。彼は茅ヶ崎の海岸の旅館・茅ヶ崎館で小津安二郎監督がつくった映画の名作『東京物語』の助監督であった。後年、直木賞作家になり、『風の盆恋歌』という小説を書いた。この小説をもとに、なかにし礼が詩を書き、石川さゆりが歌った同名の歌謡曲もヒットした。話は若い日の成就しなかった恋をモチーフにした不倫物語だが、そんな小説を書き、自称「風の盆の宣伝本部長」として活躍している高橋氏がわが街茅ヶ崎に長年住んでおられるのも不思議な縁である。▲秋の風といえは、台風だが、近年はテレビの台風報道はおおげさする

ように思う。確かに、被害を少なくするために情報を流すことは大切ではあるが、イソップの狼の話のように、来るぞ来るぞと驚かされて、本当に来た時の対応を誤らないかが心配である。▲この台風にも占領下の時代は、キャサリン、ジェーンなどの女性の名前が付けられていた時代があった。今の時代に発生順に数字で呼ぶのも味ないが、女性の名前もピンとこない。八月下旬に過去最大級のハリケーンがアメリカを襲った。その名はカトリナと米国では名づけられた。▲今年も台風シーズンがやってきた。過去にも伊勢湾台風や狩野川台風の時には、鶴嶺参道や周辺の道路が川のようになってしまうことにならないように願うのである。(井)

らいふの庭だより①

今年始めて、皆さんに教えてもらいながらスイカやキウイ、きゅうり・インゲン・茄子などを植えました。きゅうりは残念ながら『うどん粉病』にかかってしまいました。生活相談員の長谷川さんが、だんだん農業に詳しくなりつつあります。



■桑原さん、原稿をお寄せいただきありがとうございます。た。文章にもありましたが、桑原さんは、らいふ萩園がスタートしたときから利用してくださっています。趣味は写真撮影で、らいふ萩園の全記録を撮影し続けて下さっています。らいふ萩園では、桑原さんの写真展をいつか実現させたいと考えています。(編)



挿絵 大川光代氏